



国民の森林・国有林

林野庁
中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



メールマガジン登録で本誌記事や観光情報のデジタル版を毎月お送りします。
登録サイト：<https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



4月の見どころ聴きどころ㊸—赤沢自然休養林開園の森林鉄道 (上松観光協会様からの投稿)

主な項目	○ 林野庁中部森林管理局 平成30年度の取組を発表	P2
	○ 各地からのたより	P4
	○ シリーズ「森林官からの便り」	P8
	○ シリーズ「ご当地自慢」	P9
	○ 6月の見どころ聴きどころ	P10

林野庁中部森林管理局 平成三十年度の取組を発表

「企画調整課」四月二十三日、局、名古屋事務所、富山森林管理局及び岐阜森林管理署において、平成三十年度の中部森林管理局の取組について記者発表を行いました。

ここでは、平成三十年度の重要な取組や新たな試みについてご紹介します。

1 森林施業の効率化・低コスト化の推進

主伐時に発生する末木枝条等のD材については、木質バイオマス発電所への販売や機械地捨えを実施することにより、造林にかかるコストの縮減に取り組みます。

ドローン、地上型レーザース

キャナやデジタルレーザースといった、新たな機器を試行的に活用し、事業の



機械地捨え

実施に必要な各種調査の効率化を推進します。

2 A材のブランド化の推進

昨年五月に発表した「信州プレミアムカラマツ」について、長野県が予定している強度試験に協力するなど、品質・性能の明確化や製品のブランド化に向けて連携して取り組みます。また、岐阜県に

おいても岐阜県等の関係機関と連携して、高齢級の人工林ヒノキの需要拡大に向けた取組を推進します。



信州プレミアムカラマツ

3 ニホンジカ捕獲の推進

ニホンジカ対策について、平成二十八年度は中部森林管理局で約三千四百頭を捕獲していますが、ニホンジカの生息範囲の広域化や捕獲従事者が減少するなか、地域ぐるみで捕獲の取組を進めていくことが重要です。このため、これまでの取組に加え、今年度より新

たに国有林の各種事業の請負事業体等に対し、捕獲取組への協力を要請します。

具体的には、国有林の事業地周辺や、事業地への通勤経路周辺でのくくりワナによる捕獲の実施や、設置したワナの見回りと通報



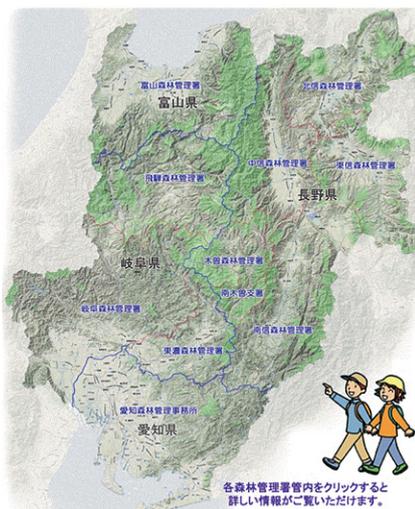
生息域を拡大するニホンジカ(木曾)

「ついで捕獲」、「ついで見回り」を試行的に行い、地域ぐるみでニホンジカの捕獲を推進します。

4 山地災害対応能力の強化

昨年五月の長野県飯山市における土石流災害では、市からの要請を受け、県、市、専門家と合同でヘリコプターを使用した被災状況調査を実施しました。

今後も、大規模な山地災害が発生した際は国有林の有無にかかわらず、初動段階における県や市町村等との合同によるヘリコプターでの広域的な調査や、被災自治体への



ホームページに掲載のルートマップ

「山地災害対応チーム(MDSAT/CHUBU(エムディーサットチュウブ)」の派遣等により、被災地の早期復旧に向けた支援を行います。



ヘリコプターを使った被災状況調査

5 里山など身近な国有林散策ルートマップの改訂

都市近郊にある里山などの国有林を地域住民により身近に感じてもらうことや、国有林を観光資源として活用した地域振興への貢献を目的として、レクリエーションの森等において、気軽に散策が楽しめる箇所の情報発信や、平成二十五年に作成した「里山などの

身近な国有林散策ルートマップ」の改訂を行います。

「里山などの身近な国有林散策ルートマップ」平成二十五年版はこちら

<http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/sidou/251211.html>

6 広報の強化

広報誌「中部の森林」、メールマガジンや局ホームページを通じて情報発信を強化します。

なお、記者発表については昨年度までは局及び名古屋事務所の二箇所で行っていましたが、今年度は情報発信を強化すべく、富山県、長野県、岐阜県及び愛知県の管内四県にて実施しました。

「平成三十年度中部森林管理局の取組」詳しくはこちら

<http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/policy/business/sigoto/outline/index>



「保全課」四月二十三日、局での

記者発表に先立ち「わたしの美しい森フォトコンテスト」中部森林管理局長賞の表彰式を行い、長野県茅野市八ヶ岳で撮影された受賞作「ブルースカイ」について、撮影者の佐野武将さんに対し宮澤局長より表彰状を授与しました。

「わたしの美しい森フォトコンテスト」は、日本国内の森林や山村地域の様々な魅力的な風景が撮影された写真を情報発信すること、各地に多くの観光客が訪れ、地域の活性化につながることを期待して、林野庁をはじめとした関係団体による実行委員会により開催されたものです。募集期間は昨年十二月十一日から今年の二月十三日まで、全国各地の森林や生き物の特徴、絶景を捉えた一、一七四点もの応募がありました。

三月六日に行われた林野庁長官や写真家の先生方によって構成される審査会における



受賞された佐野武将さんと宮澤局長



受賞作品【ブルースカイ】

厳正なる審査を経て、佳作以上の作品十二点が選出されると共に、中部森林管理局長賞の受賞候補作品として十点が絞られました。この中で中部森林管理局管内特有の魅力的な景勝地を発信するにふさわしい作品を厳選し、静岡県在住の佐野武将さんの作品「ブルースカイ」が選定されました。

受賞された作品は、抜けるような真つ青な青空と、急峻な山々を背景に雪をまとった木々の美しいコントラストが特徴で、真冬の凛とした山岳地を一度は訪れてみたいと思わせてくれる魅力に溢れています。撮影者である佐野さんご

自身は、高山帯でありながら四季折々の楽しみ方ができる八ヶ岳がとてもお気に入り、静岡の自宅から頻繁に訪れており、撮影された日も早朝から硫黄岳へ向けて登山を楽しんでいたとのこと。前日に降り積もった雪が朝日に照らされた瞬間、この印象的な風景に出会うことができ夢中でシャッターを切ったといいます。八ヶ岳のこの時期ならではの美しさを表すことができたことから、コンテストにも初めて挑戦してみようと思われ応募し、このたび初応募にして見事受賞されました。

中部森林管理局管内は八ヶ岳をはじめ、北アルプスや中央アルプスなど日本有数の山岳地帯を抱えており、特に春から秋にかけては、県内外や国外からも登山やトレッキングに親しむ観光客の方々に賑わいます。山岳域をはじめ、多様な森が織りなす景観をことうした素晴らしい作品によって広く情報発信していくことで、さらに多くの方に森林や山村地域に関心を持って訪れていただけることを願っています。

各地からのたより

「あがりこサワラの森」 松川村と協定を締結

【中信署】三月二十二日、松川村と中信森林管理署は、松川村役場において、「あがりこサワラの森」の協定締結式を行いました。

「あがりこ」とは、台伐りを繰り返すことにより、萌芽し奇妙な形となった樹木のこと、過去の人と森との関わりを示す歴史的な遺産といわれています。特に、サワラの木は萌芽力が弱いため、あがりこサワラは全国的に見ても非常に珍しいものといわれています。松川村の有明山山麓の馬羅尾国^{バラオ}有林には、あがりこサワラが群生しており、保護林（郷土の森）として取り扱ってきたが、保護林制度の見直しに伴い、協定締結による国民参加の森林づくりとして取り扱うことになり、名称を「あがりこサワラの森」とすることとなりました。



あがりこサワラ

今後は、あがりこサワラのほかにヒノキ、ナラ、ホウノキなどが群落するこのフィールドを地域住民が中心となり環境保全や周辺遊歩道等の整備・維持活動が円滑に実施できるよう松川村と連携して、地域振興に貢献していく予定です。



松川村長（左）と角中信署長

戸隠森林植物園において 地元中学生が小鳥の 巣箱かけを実施

【北信署】四月九日、長野市立戸隠中学校二年生十六名による小鳥の巣箱かけが、戸隠森林植物園で行われました。

この巣箱かけは、同校が「戸隠高原に生息する身近な鳥類に興味を持ち、生態について学ぶ」、「二学年の伝統的な行事として生徒相互の親睦関係を深める」ことを目的に昭和四十八年から毎年行われている行事で、今年で四十六回目を迎えました。



小鳥の気持ちを考えたの巣箱かけ

巣箱は毎年、生徒により作製され、今年も小鳥の種類を考慮した大小二種類の穴の大きさのものを

合計十八個用意しました。当日は、生憎の小雪混じりの天候の中、まず、北信森林管理署職員から巣箱を取り付ける高さや方向についてアドバイスを受けた後、生徒たちは、一歩程ある残雪上を歩きながら、小鳥の目線・気持ちになって、「どのように掛けたら巣箱に入ってくれるのか？」をイメージし、皆で協力しながら、地上二メートルほどの位置に固定していきました。

巣箱かけ作業の終了後、長年、同植物園で野鳥観察を担当する「NPO法人 戸隠森林植物園ボランティアの会」の羽田 収さんから、園内の野鳥の種類や鳴き声など、身近な自然に生息する野鳥の生態について説明を受けると、生徒たちは、小鳥の写真を見ながら、小鳥の巣作りに期待を膨らませていきました。

同植物園では、百種類以上の野鳥観察ができ「野鳥の宝庫」として知られていることから、今年も生徒たちが心を込めて設置した巣箱に、多くの可愛らしい小鳥たちが集い、地元をはじめ、県内外か

ら訪れる大勢の利用者を楽しませ
てくれることを期待しています。

社会貢献の森で森林整備を実施

〔富山署〕 四月七日に大沢野国有
林において、地域のNPO法人き
んたろう倶楽部と共同で森林整備
を実施しました。

この活動は、富山市の旧七市町
村を拠点に活動するきんたろう倶
楽部と富山森林管理署が平成
二十二年に社会貢献の森として協
定を結び、毎年同国有林で保育作
業を行っているものです。

例年、春の時期に、林内に繁茂
し、生育する広葉樹などに悪影響
を及ぼす竹の除伐を行っていま
す。

(5) 平成30年5月

今年も「風とせせらぎの森(稲
代)竹林整
備」と題
し、きんた
ろう倶楽部
の十名と当
署から指
導・作業者
として参加



除伐した竹をチップパーで粉碎中



歩道へのチップ敷き作業

した三名の職員により、竹の伐採
を行い、それをチップパーで粉碎し
て林内の歩道に敷いていく作業を
行いました。

現地の竹は、毎年の手入れでそ
の勢力は少しずつ弱まってきてい
ますが、伐採の必要な箇所は多
く、この日は朝から強風が吹く悪
条件も重なったため、思いのほか
大変な作業となりました。

それでも、日中になると徐々に
風も収まり全員がケガをすること
なく一日の作業を終了することが
できました。

作業後はきれいに整備された林
を見ながら、「良い汗をかいだ」、
「この地域のヤブ蚊対策にも貢献
できたのではないか」との声も参
加者から聞かれ、参加者全員に
とって有意義な一日となりました。

今後も継続して森林整備を行っ

ていくことが大切であり、署とし
ても「きんたろう倶楽部」と連携
してこの活動に取り組んでいき
たいと考えています。

林野庁林政記者クラブ管内視察

〔愛知所・名古屋事務所〕 四月
十三日～十四日に林野庁林政記者
クラブ七社八名が愛知森林管理事
務所管内及び名古屋市内を視察し
ました。

初日は、宮澤局長から中部局の
概要の説明のあと、三河材流通加
工業業協同組合にて三河地域の木
材の集荷から製品までの一連を視
察しました。

その後、段戸国有林に場所を移



三河材流通加工事業協同組合
から説明を受ける記者



低コストで効果も高い「サイネット」

し、愛知所長からの概要の説明
後、ヒノキ天然更新試験地、最古
の造林地、ニホンジカ被害対策の
現地を視察しました。日頃、現地
に入ることが少ない記者もおられ
たことから、興味深く質問をされ
ていました。

続いて、東海木材相互市場サテ
ライト名倉にて三河地方の原木の
集荷等を視察し一日目を終了しま
した。

二日目は、名古屋事務所職員か
ら名古屋城本丸御殿での木材の利
用状況や熱田白鳥の歴史館で木曾
と名古屋の繋がり、白鳥貯木場の
歴史について説明を受けました。
歴史館の説明では、筏流しについ



千畳敷での安全祈願

雲上に春の訪れ
「中央アルプス開山式」
「南信署」 四月二十六日、快晴の雪山にイワツバメが飛び、アルプホルンの心地よい音色が春山シーズンの到来を告げました。
 標高二、六一二メートルの千畳敷カールで中央アルプスの開山式が開催され、山岳・観光関係者、関係行政機関など約百六十人が参列し、

ての質問がされるなど歴史館で見られない資料に興味を示していただきました。
 大変短い期間の視察でしたが、中部局、愛知所の取組について記者の方々に知っていただく良い機会となりました。

観光シーズンの安全を祈願しました。
 当日の気温は約八度で、風はいささか冷たかったものの柔らかい日差しが春の中央アルプスを包み込んでいました。
 そんな中、目にも鮮やかな雪と岩のコントラストをバックに、早速、スキーヤー、スノーボーダーが自由に白銀のキャンバスに思い思いのシユプールを描いていました。春スキーは五月中旬まで楽しむことができそうです。
 千畳敷カールへは、山麓の駒ヶ岳ロープウェイしらび平駅（一、六六二メートル）から僅か七分余りで山頂近くの千畳敷駅（二、六一二メートル）まで一気に到着してしまいう快適さで、登山者ならずとも贅沢な時間を堪能することもできます。
 同ロープウェイは、標高日本一と高低差日本一の記録を有しており、真下には、雪解け水を集めて豪快に水しぶきをあげる「日暮の滝」を眺めることもできます。
 平成二十九年度のロープウェイの利用者数は約二十二万人で、ピーク時には、一日四千人を超え

る人が利用する日もありました。今年度も登山者、観光客で大いに賑うことと思われます。
 千畳敷カールを含む駒ヶ岳一帯は「駒ヶ岳風致探勝林」に指定されており、この度、レクリエーションの森の中でも特に魅力的な自然景観を有する森林として「日本美しの森 お薦め国有林」に選定され、案内リーフレット（日本語版・英語版）が作成されました。
 是非このリーフレットを片手に中央アルプスを訪れ、眼前に広がる天空の大パノラマや、可憐な高山植物を楽しみながら心身ともにリフレッシュしてみたいかがでしょうか。

第五十回上高地開山祭

「中信署」 四月二十七日、第五十回目となる「上高地開山祭」が、河童橋のたもと、宮澤局長参加のもと開催されました。

開山祭は、昭和四十二年から雪の深かった昭和五十六、五十九年を除いて毎年開催されています。



地元保存会による獅子舞の奉納

当日は、残雪を抱いた穂高連峰をバックに、アルプホルンの演奏で開幕し、観光客や登山客約三千六百人が見守る中、五十回目の節目を祝いながら、北アルプスの本格的な山岳観光シーズンが幕開けしました。
 河童橋では鏡開きが行われ、地元保存会による獅子舞も奉納されました。
 開会式では、宮澤局長から、ライチョウの巡視やニホンジカの監視活動、また山岳景勝地としての安全を守る治山ダムを設置など、上高地エリアで行われてきた中部森林管理局の取組が紹介され、「次の五十年に向けても、経済・

環境・観光・安全の調和が一層図られるよう努めていきたい」との挨拶がありました。

上高地は、年間約百二十万人が訪れる国内屈指の山岳リゾートで、大半が国有林です。標高千五百メートルの高地にありながら、ほぼ平坦な道が続くため、散策路はとでも歩きやすく、日帰りの短時間滞在でも目的を絞れば満足していく時間が過ごせ、誰でも安心して楽しめる素敵な場所です。

平成三十年度信越九市町村 広域観光連携会議総会で 宮澤局長が講演

「北信署」五月九日、飯山市文化交流館「なちゅら」で開催された信越九市町村広域観光連携会議総会において、宮澤局長による「森林と木材と観光のこれから」をテーマとした講演が行われました。

この会議は、信越の九市町村（飯山市・中野市・妙高市・山ノ内町・信濃町・飯綱町・木島平村・野沢温泉村・栄村）の共通文化圏エリアを「信越自然郷」と命名し、世界中からの客を呼び込め

る観光リゾート地を目的とし、新しい市場を創り、経済効果により地域の発展を期待するもので、当日は、関係市町村の首長をはじめ、関係機関等の概ね八十名が参加しました。

今回の講演は、グローバルな視点から世界の森林分布やその効果、木材を利用した公共建築物の紹介にはじまり、海外観光体験を踏まえ、世界から見た「信越自然郷」の魅力や拠点間交流の重要性、国有林フィールドの活用等についてなど、映像や数値を交えた大変興味深い内容となりました。

講演後、足立飯山市長からは、「森林空間の活用方法や木材利用、そして信越自然郷における魅力発



宮澤局長の講演

見等、今後の在り方のケーススタディとなる講演で、大変ためになった」との謝辞が述べられました。

北信署としても、より一層、地域一体型の森林管理署として「地元の声を聞く」ことを徹底し、民国連携による国有林の管理経営を通じ、地域振興に貢献できるように取り組んでいきたいと考えています。

第二十八回つけち森林（もり） の市の開催

「東濃署」五月三〜五日までの三日間、第二十八回となるつけち森林の市が、裏木曽街道公園・道の駅「花街道付知」で開催され、秋山東濃署長発声による乾杯で幕をあけました。

会場の広場にはテントが並び、木製品・素材展示販売などの中、当署も三日、四日の二日間、丸太切りをして鉛筆立てを作成するコーナーをメインに参加しました。早朝の雨が上がり天候も何とか回復する中、署のブースは両日で二百五十人を超える家族連れで



太い木を初めてノコギリで切ったよ！

賑わい、「こんな太い木をノコギリで切ったのは初めてで楽しかったよ」などと目を輝かせながら、切った木に思い思いの色を付け鉛筆立てを完成させていました。

当署もテント張りなどの準備から参加し、地域に貢献する国有林を広くアピールする機会となりました。



乾杯の発声をする秋山署長



愛知所田口森林事務所

首席森林官 野口和幸

田口森林事務所は、愛知県東部の奥三河に位置し、段戸国有林と檜原国有林、一の又国有林の合計約五、六〇〇ヘクタールの国有林野を管轄しており、所属職員は首席森林官の私と地域技術官の小川、行政専門員の熊谷の三名です。



田口森林事務所の職員
(中央が野口首席森林官)

管内のほとんどはヒノキを主体とした人工林で、立木販売や請負事業による、主伐や間伐など面積は、合計で一、〇〇〇ヘクタールを超えており、監督業務など多忙な毎日を送っています。

このように当森林事務所は、段

戸国有林を主体に多くの業務を担っており、それらを少数精鋭の体制で対応するため、昨年度から各署等へ導入された無人航空機(ドローン)なども活用して、立木販売箇所や請負事業の進行状況の確認などを行っています。

また、このドローンの活用に関しては、新植地・下刈箇所が年々増加していることに伴いニホンジカやカモシカが防護柵内へ侵入し苗木などを食い荒らすことが増加していることから、防護柵の異常の有無の点検を行ったり、シカなどの動物は五十メートル程度まで近づくと警戒して逃げることを利用して空中からニホンジカやカモシカの防護柵外への追い出しができるかの検証なども行っています。

このほか、段戸国有林の中心部には人工の湖である



ドローンからの空中撮影

段戸湖があり、その周辺には「きららの森」(段戸裏谷原生林は、森林の木漏れ日や、光に反射してきらきらと光る地表の雲母から、地元では「きららの森」と呼ばれています)と呼ばれる、愛知県内では貴重な原生林があり、多くの人々が憩いの場として訪れています。



段戸湖の風景

そして昨年は、管内国有林において、百二十年に一度といわれる非常に貴重な自然現象であるスズタケの一斉開花(広域・多個体同調開花)が見られました。過去(昭和二十九年頃)にはクマザサが一斉開花し、ササの実が大量にできたため野ネズミが異常繁殖し



スズタケの花

たとの記録があることから、今回もスズタケの実が食料となり野ネズミが異常繁殖し農林業への影響が懸念されたため、森林総研と共同でササの実を採取したり、シャーマントラップやバネ式トラップを使用して野鼠調査を行うなどしています。

また、今年度から第五次地域管理経営計画の計画期間となり、自然環境の維持・保全や、分収育林の契約満了に伴った伐採・更新・保育等の事業が増加していることから、これらが計画どおりに進むよう、所、関係機関、地域住民と連携を取りながら業務を進めていきたいと考えています。



下包

- ①初旬 ブナ新緑 (北信署 飯山市) 鍋倉山山麓のブナの新緑が見頃。
- ②1日 梅池自然園開園祭 (中信署 小谷村)



梅池自然園へと上る梅池パノラマウェイも営業を開始、それに合わせて「梅池自然園開園祭」が行われます。本州で最も遅咲きの水芭蕉が見頃となる6月22日から26日まで「梅池自然園水ばししょう」祭りが開催されます。

- ③1日 湯の丸高原山開き (東信署 東御市)

浅間連峰の西側に位置し、その名のとおろ、丸く穏やかな表情の峰々と爽やかな亜高山帯の気候で「花高原」として親し



まれている湯の丸高原において山開きが開催されます。下旬にはレンゲツツジが満開になります。

- ④1日 剣岳山開き (富山署 上市町) 立山連峰の北部に位置し、北アルプスの中で最も峻険な山として知られる剣岳。夏山シーズンを迎え、馬場島登山口で山開きが開催されます。
- ⑤1～3日 第20回木曾漆器祭、奈良井宿場祭 (中信署 塩尻市)

木曾漆器祭は、木曾平沢(国の需要伝統的建造物群保存地区)で開催される年に一度の大漆器市です。宿場祭のメインイベントは、「お茶壺道中」江戸時代徳川将軍家御用のお茶を毎年、京都宇治から中山道、甲州街道を経由して江戸まで運んだ道中行列を再現。時代絵巻を思わせる見事な行列です。

- ⑥2日 平成30年度 ふるさとの森づくり県民の集い(第69回長野県植樹祭) (南信署 売木村)

下伊那郡売木村の南信州広域公園及び売木村村有林で「続けよう 笑顔でつくる森づくり」を大会テーマに開催。

- ⑦2日 雨飾高原安全祈願祭 (中信署 小谷村)

雨飾高原には、百名山のひとつに数えられる雨飾山、山麓には素晴らしい広葉樹林が広がり、これからの夏山シーズンから、紅葉の時期に向け、多くの登山者で賑わいます。

- ⑧2日 御嶽山山開き(岐阜県側登山口) (岐阜署 下呂市)

御嶽山の岐阜県側登山口の山開きが、御岳自然休養林内の濁河温泉で開かれます。二〇一四年の噴火災害で犠牲となった方々に黙祷を献げ、夏山シーズンの安全を願います。

- ⑨3日 八ヶ岳開山祭 (南信署・東信署 茅野市ほか)



「ツクモグサ」もそろそろ見頃? 山に登らないと見られない

八ヶ岳周辺の固有種、ツクモグサも見頃です。南八ヶ岳会場：赤岳山頂、北八ヶ岳会場：北横岳山頂

- ⑩3日 第72回ウエストン祭 (中信署 松本市)

日本近代登山の父、ウォルター・ウエストン氏の偉大な功績を讃えるイベント、上高地のレリーフ前で開催されます。

- ⑪3日 第61回針ノ木岳慎太郎祭 (中信署 大町市)

日本三大雪渓である針ノ木岳雪渓で日本近大登山の先駆者、百瀬慎太郎氏を偲

ぶ北アルプス大町の夏山シーズンの開幕を告げる開山祭。針ノ木峠までの記念登山や自然観察会などが行われ、参加者へは、温かいおしるこや記念品のプレゼントがあります。

- ⑫未定 白山山開き (飛騨署 白川村) 日本三名山のひとつ、白山(二七〇二m)の岐阜県側の山開きが、大野郡白川村平瀬の平瀬白山神社で開催されます。
- ⑬9日 北信州森林祭 (北信署 野沢温泉村)

長野県野沢温泉村のオリンピックスポーツパークにおいて、植樹や下刈り作業が行われます。

- ⑭9日 南木曾岳登山安全祈願祭 (南木曾支署 南木曾町) 日本三百名山に選定されている中央アルプス・南木曾岳(二六七九m)の夏山シーズン入りを告げる安全祈願祭が、登山口近くの蘭キャンプ場で開催されます。
- ⑮9日～10日 薬師岳夏山開き (富山署 富山市)

剣岳・立山と並び北アルプスの主峰である薬師岳で夏山開き、当日は記念登頂会も開催され、頂上からは立山連峰・後ろ立山連峰や穂高、乗鞍岳などの壮大な景観を楽しむことができます。

中包

- ⑯10日 乗政大滝滝開き (岐阜署 下呂市)

下呂温泉街から車で約二十五分、乗政国有林入口に所在する乗政大滝。水温の変化が少なく、滝水はワサビ栽培などに利用されており岐阜県名水五〇選のひとつです。

①7 10日 水無観察会 (富山署 南砺市) NPO法人「利賀飛翔の会」が主催する観察会を開催。

水無国有林にある水無平湿原は、ミスバシヨウなど四季折々の植物が見られる貴重な自然の宝庫地となっています。

①8 10日 信州木曾あげまつ 第20回記念 森林セラピーウォーキング大会

(木曾署 上松町) 赤沢自然休養林のウォーキング企画です。参加申し込み等は「上松町教育委員会内のウォーキング大会事務局」へ(参加費必要)。



①9 15日 白山白川郷ホワイトロード開通 (予定) (飛騨署 白川村) 白川郷と加賀温泉郷を結ぶドライブコースが開通します。

②0 16日 戸隠竹細工の森保全活動体験会 (北信署 長野市) 地域で守り受け継がれてきた竹細工職人たちの手仕事の技を公開。また、一緒に自然を守り自然と共存しつづけるため

の森を守る活動を実践することができま

す。

②1 18日〜19日 東濃ヒノキ「地産地消」トップセミナー(主催は中津川・白川・東白川地域林業成長産業化推進協議会、恵那山林協会)

(東濃署 中津川市) 都市部の観光宿泊施設等における東濃ヒノキの活用や需要拡大について意見交換・現地見学等が行われます。

下包

②2 23日 馬瀬川(上流) 鮎釣り解禁

(岐阜署 下呂市) 太公望が集まる清流馬瀬川は溪流魚の生息環境を守るため民国連携して上流部の森林を「溪流魚付き保全林」に指定して自然環境の保全に取り組んでいます。

②3 23日 黒姫トレイルランニングレース (北信署 信濃町) 黒姫山国有林のフィールド等を活用し、ランニングレースに挑みます。

②4 24日 ABMORIの森林づくり (北信署 山ノ内町) 「後世に残そう森・水・命」をテーマに長野県山ノ内町蓮池スキー場において、植樹作業が行われます。

②5 24日 風吹岳夏山開き (中信署 小谷村) 風吹岳(一八八八メートル)は北安曇郡小谷村にある山。この山のすぐ下にはある神秘的な風吹大池で夏山開きが行われま

す。

②6 26日 黒部ダム観光放水開始 (富山署 立山町) 高さ一八六メートル(日本一)、総貯水量約二億立方メートルの黒部ダムでは、6月26日から10月15日まで観光放水が行われます。

北アルプスの山並みを背景に、エメラルドグリーンの黒部湖から白く霧状になって噴き出す放水は、訪れる人を魅了します。

②7 30日 夜叉ヶ池山開き (岐阜署 揖斐川町) 龍神伝説が伝えられる「夜叉ヶ池」は福井県と岐阜県の分水嶺上に位置する池の周囲二六〇メートル、最大深八メートル程度の小さな池ですが、池に流れ込む沢などはなく、雨水や雪解け水と周囲の森林からの伏流水が水源となっています。(残雪により延期あり)



②8 30日 第8回美ヶ原トレイルラン (東信署 長和町) 長野県長和町美ヶ原エリア、ブランシュタかやまスキーリゾートにおいて四種目のトレイルランが開催されます。

す。

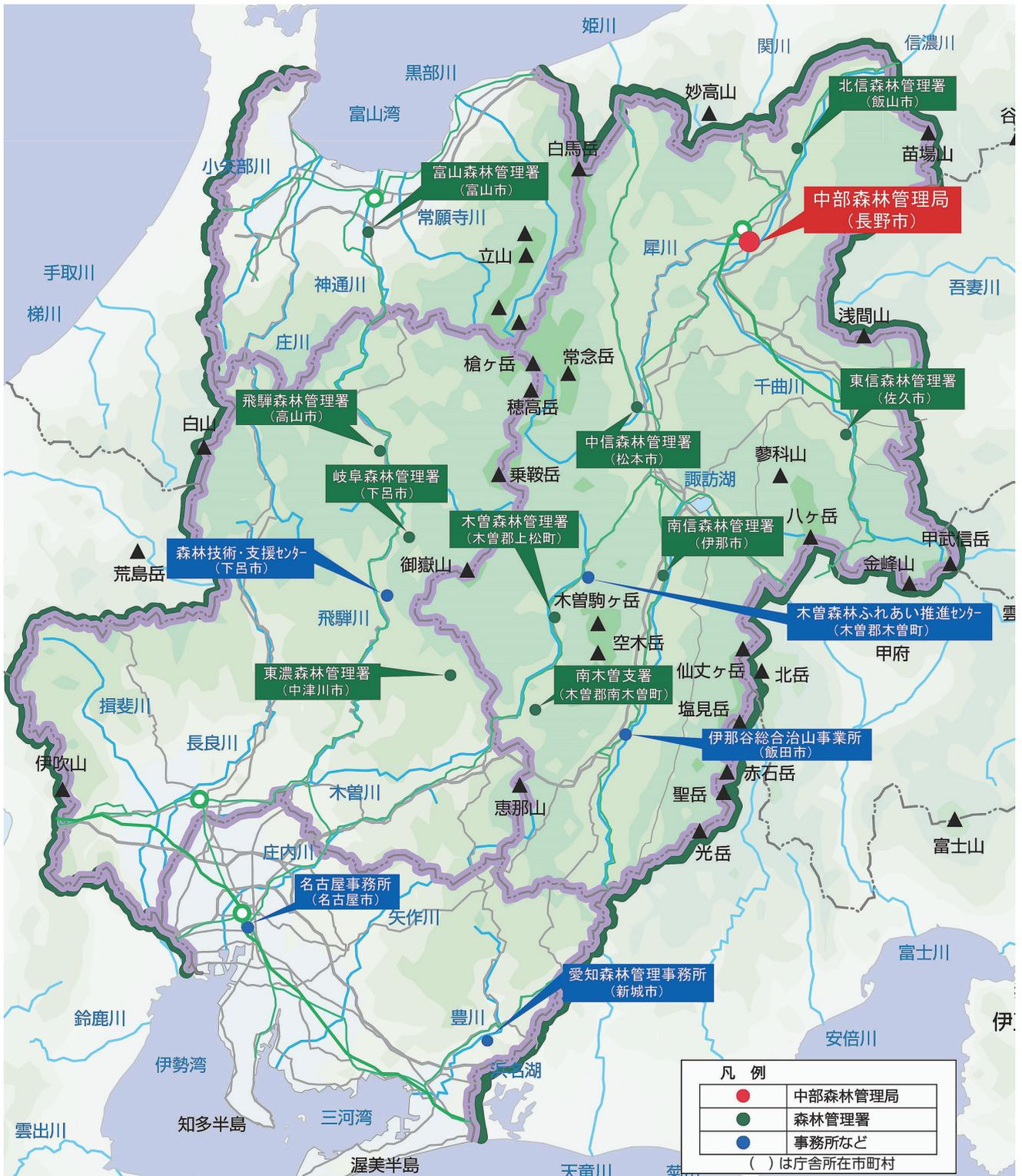
編集長だより あなたの写真を！お待ちしております

☆いよいよ夏山シーズンの開幕となり、各地で山開きが行われます。中部森林管理局の国有林には、レベルに応じて楽しめる様々な山があります。

☆緑はいつそう色濃くなり、高い山からも花の便りが聞かれる季節です。ぜひ国有林に出掛けて下さい。ステキな写真が撮れましたらmigoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。(1メール容量2MB以内)

☆特にステキな写真は、広報誌「中部の森林」の表紙に掲載し紹介させていただきます。あなたの写真が来月号の表紙を飾るかもしれません。投稿をお待ちしております。

ご投稿には、氏名又はニックネーム、整理番号(6月なら①～②⑧のいずれか)、撮影日を記入してお送りください。感想やコメントを添えて頂いても構いません。



お問い合わせ先 中部森林管理局 〒380-8575 長野県長野市大字栗田715-5 TEL 050-3160-6507 FAX 026-236-2657

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	FAX 052-683-9269
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	FAX 076-424-4934
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	FAX 0269-62-4144
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	FAX 0263-47-4754
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	FAX 0267-82-6959
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	FAX 0265-72-7774
木曾森林管理署	〒399-5604	長野県木曾郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	FAX 0264-52-2582
※南木曾支署	〒399-5302	長野県木曾郡南木曾町吾妻3859-39	TEL 050-3160-6070	FAX 0264-57-2686
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	FAX 0577-34-8932
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	FAX 0576-62-2503
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	FAX 0573-82-2109
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	FAX 0536-23-2254
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	FAX 0576-25-2420
木曾森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曾郡木曾町福島1250-7	TEL 0264-22-2122	FAX 0264-21-3151
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3610-6075	FAX 0265-22-0149

※南木曾支署は平成31年1月（予定）まで庁舎工事のため上記に移転中です。